

あとがき

第12回研究会は諸般の事情で、初の東京開催となった。アクセスの良い(代々木校舎)会場を確保することができたのは、東京医療専門学校の協力のおかげである。また、会費制としたことで、世話人会では参加者確保に不安が湧いていた。幸い、蓋を開けてみたら、研究会としての体裁を保つことができた。

多くの方々のご理解とご協力に感謝するとともに、本研究会への責任を痛感している。

平成以降、あはきを取り巻く環境は著しく変化した。しかし、それは規制緩和やグローバル化した市場経済の伸展といった、いわば世論と時代の要請という自然な成り行きであったとも思われる。一方で規制と保護、成長経済に支えられた昭和の、あはき柔整安定時代に斯界(臨床、研究、教育)が安泰を謳歌しすぎた結果が招いたとも考えている。特にここ数年は、鍼灸関連問題が複雑に絡まり、我々だけの研究ではおぼつかない面が多々あることを感じてきた。研究人材と知的なパワーによるさらなる検証が望まれる。

形井代表と私でスタートした研究会は、徐々に現在の世話人が自主的に関わり、世話人会として運営されている。先日の会議で、もっと若い人を育てる必要性について話題になった。そこで、世話人として研究会の運営に係わる人材を募っている。鍼灸に愛があり、社会学的な研究に興味をもち、冷静にディスカッションできる人、若干のジョークが通じる方なら、なおさらウェルカムである。

いわゆる学会は演者の発表やパネルディスカッションを一方的に聞くだけで、おもしろくない。それ以上に飲み屋で口角に泡を飛ばしても仕方がない。近現代(未来)鍼灸の社会学的な話題や問題を学術的にディスカッションしよう、という目的と原点はこれからも大事にしていきたい。

2017年、天候不順の影響は本研究会まで及んだ。おかげで、初日の閉会時、土砂降りの雷雨に見舞われるという思い出ができた。

副代表 箕輪政博